

「第3次豊田市森づくり基本計画」の策定にあたって



豊田市は、2000年に見舞われた東海豪雨による被災を教訓として、市域の約7割を占める広大な森林を健全化するため、2007年3月に「豊田市森づくり条例」を制定するとともに、「豊田市100年の森づくり構想」を策定しました。さらに、森づくりの具体的な目標と施策をまとめた、「豊田市森づくり基本計画」を、2007年10月及び2013年3月にそれぞれ定めました。

これらの基本計画に基づき、新たな間伐補助制度の創設、地域組織「地域森づくり会議」の設立や「森づくり団地計画」の策定の支援など、日本国内をみても独自の先進的な諸施策を10年間にわたって実施してきました。

こうした地域との共働の取組により、人工林の境界の明確化など森づくりの基盤整備が進み、市内の過密人工林を大幅に減らすことができました。さらには、市内の公共施設における豊田市産材の利用やとよた森林学校などの普及啓発活動により、森づくり（森林整備）や木づかい（木材利用）が話題となる機会が多くなったことも成果の一つであります。

しかしながら、材価の更なる低迷、全国的な豪雨災害の頻発や、地方税財政制度の変更など、本市を取り巻く情勢は大きく変化しています。また本市では現在、中核製材工場を誘致して間伐の推進力とし、豊田市産材の積極的な利用と森づくりの好循環を図ることを目指しています。これらを踏まえ、本市では「豊田市100年の森づくり構想」をリニューアルすると同時に、「第3次豊田市森づくり基本計画」を策定することとしました。

第3次基本計画では、2018年度から10年間を計画期間として、森づくりに向けた目標と施策を大胆に見直し、間伐推進や地域材の生産・流通・利用だけでなく、森林保全や人材育成などの施策を充実いたしました。また都市部と山村地域の交流が進み、山村地域の活性化につながることも期待されます。

最後に、計画の策定にあたり多くの貴重なご意見・ご提言をいただきました市民の皆様をはじめ、計画の立案に多大なお力添えをいただきました「とよた森づくり委員会」の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

2018年3月

豊田市長 太田 稔彦